

こうか市民活動ネットワーク 平成17年度 活動の記録

タイトル	こうか市民活動ネットワーク設立総会
主な内容	設立総会、パネルトーク、部会別討議
開催日時	平成17年10月10日(月)
開催場所	かふか生涯学習館
参加者	45名
内 容	<p>● 第1部：総会 議案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こうか市民活動ネットワーク規約 ・ 役員承認 ・ こうか市民活動ネットワーク設立経過報告及び活動目的 ・ こうか市民活動ネットワーク 事業計画 ・ こうか市民活動ネットワーク 事業予算 <p>● パネルトーク テーマ「市民と行政の協働に期待すること」 パネラー 今井恵之助(甲賀市助役) 野口喜代美(きずな運営協議会) 大平正道(かふか市民ネット) コーディネーター 林田久充(エルダー旅倶楽部 琵琶湖講座)</p> <p>● 部会討議 協働学習部会、情報交流部会、支援部会のH17年度活動計画について検討</p>

タイトル	情報交流部会 交流会(水口)
主な内容	地元の活動団体の活動発表、参加者の意見交換
開催日時	平成17年12月11日(日)
開催場所	サントピア水口
参加者	23名
内 容	<p>● 水口にある酒造業者による話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国の酒造が経営困難の中で産業又は後継者の育成に力を入れ、甲賀市内の酒造業者の若い世代がそれぞれの独自の創意により「近江の地酒」を考案し、参加者に感動を与える <p>● 郷土史会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内の東海道の著名な宿場町の駅とそこを往来した数々の人物群の息づかいを郷土史とともに文化史として語る

	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光案内所 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「近江蔵元の会」「水口郷土史会」「観光協会」が協力し立ち上げた。 ● 水口の特産品と言われたかんぴょうを賞味
--	--

タイトル	第1回幹事会
主な内容	こうか市民活動ネットワーク運営における課題の検討
開催日時	平成17年12月15日 (木)
開催場所	自主活動センターきずな 2階和室
出席	大平、林田、糸井、杉田、森口、水谷、岡村、清水
内容	<ul style="list-style-type: none"> ●各部会の取り組み状況について <ul style="list-style-type: none"> ○情報交流部会 <p>12月11日に情報交流会(水口)をサントピアで開催 23人参加 「水口囃子」を聞かせて酒づくり、自助具の団体の活動紹介 水口の特産「かんぴょう」試食</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総会后、直ぐに幹事会をもって、ネットワークの広報をすべきであった。 ・記録をきちんととって、一般の方への周知をしていくべき。 ・プライバシーの問題があり、名簿は出せないということ由市から言われたが、どのようにしてこの会の周知を図っていくか。誰が会員かはっきりしていない。 ・「協働」で進める以上、市と市民で行うわけだから、市でできること、市民ができることを明確にしていく必要がある。 <p>今後の情報交流会は、1月14日は信楽、1月22日は土山、2月4日は甲賀、2月18日甲南で順次行っていく。</p> ○協働学習部会 <p>1月21日(土) 聴覚障害者センターに視察訪問 障がいをもった方の目線でまちづくりを考える。(メンバー間の状況や環境をまずは理解し合うことで、協働に向けた取組みができる。)</p> ○支援部会 <p>現在計画中</p> ○会員について <p>市もネットワーク会員自身も、加入しているメンバーのことをしっかり把握する必要があるのではないか。 まずやれるところから動く。</p> ○幹事同士の連絡、市との連絡はメールで行う <p>メーリングリストを作れるかどうか検討</p> ○補助金の申請について <p>部会が動き出したので、至急に補助金申請が必要。</p>

	基本的に飲食代は支出できない。
タイトル	情報交流部会 交流会 (信楽)
主な内容	講演「信楽 いま・これから」フリートーク、活動発表
開催日時	平成18年1月14日 (土)
開催場所	谷川会館
参加者	43名
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ●講演「信楽いま・これから」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 信楽「焼き物」産業の危機 ・ 「紫香楽の宮跡」－文化史跡の発掘により「日本史」が変わる ●フリートーク <ul style="list-style-type: none"> ・ 青年寮 ・ 甲賀もちふる里館 (甲賀町佐山、小佐治の人々の努力・協力により、村おこしが前向きに進行中) ・ 水口スポーツセンター ●火鉢を囲んで！昼食 <ul style="list-style-type: none"> ・ 多羅尾生活改善グループによる「お餅」「こんにゃく」「田楽」「ねじりん棒」「五穀焼きおにぎり」「お漬け物」 ・ 多羅尾生活改善グループ代表田中さんを中心として「小さな村の大きな元気」が参加者に勇気を与えた ・ NPO 秀明自然農法ネットワークによる「焼き芋」 ・ 「第2土曜の会」が発足。信楽の人、他市府県又焼き物にこだわらず「信楽」のあり方を話し合う会 ●市民活動発表

タイトル	協働部会
主な内容	滋賀県聴覚障害者センター、第1びわこ学園視察
開催日時	平成18年1月21日 (土)
開催場所	滋賀県視覚障害者センター 第一びわこ学園
参加者	19名
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ●滋賀県視覚障害者センター施設見学および講話 <p>講話「障害者からみたまちづくり」 滋賀県聴覚障害者福祉協会 和田さん 情報による障害</p> <p>日常様々な音声による情報が流れている中で、情報を把握し、判断して行動することができない。例えば震災、豪雨などによる洪水、急病、交通事故などの際必要な情報が得られない (災害弱者)。</p>

	<p>コミュニケーションによる障害</p> <p>医療機関での受診、自治会・近所づきあい、学校の保護者会などでの対人関係づくりの難しさ。</p> <p>聴覚障害とは、外見上見えない障害。それゆえ理解いただけない場合も多い。聴覚障害者も安心して生活していくには、地域の皆さんの理解と協力をお願いするとともに、地域生活支援ネットワーク、防災ネットワークなどが確立されたらうれしい。</p> <p>●第一びわこ学園〔重症心身障害児（者）施設〕</p> <p>どんなに重い障害をもっていても、一人ひとりが安心して豊かに生活できる場をつくり、誰もが社会の一人として尊重され、社会参加、豊かなコミュニケーションを形成していける場を提供する。障害のある人もない人も、地域の中で支え合いながら、共に生活が営めるように支援し、理解の輪を広げるとい理念をもっておられる。</p> <p>1987年11月「抱きしめてBIWAKO」が行われ、びわこ学園新築移転費用の一助にできればという思いを込めて26万人の人が参加費1000円を負担して琵琶湖のまわりで手をつないだ。</p>
--	--

タイトル	情報交流部会 交流会（土山）
主な内容	地元を拠点とし活動する団体の発表、参加者の意見交換
開催日時	平成18年1月22日（日）
開催場所	開発センター
参加者	17名
内 容	<p>講演「土山の魅力とこれからの土山」 元土山町長 松山正己さん</p> <p>情報交換</p> <p>●経友会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢を語り、その想いはひとつ。しかし現在どのように進めるべきかわからない。それぞれが情報の交換・発信をすべき。 <p>●手話サークル「グーチョキパー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの人とのコミュニケーションがとれない（聴覚障害者）→ 手話のできる人を増やしたい。 ・緊急事態時の「コミュニケーション障害者」ともいえる人々のために「手話サークル」の充実を望む

タイトル	情報交流部会 交流会（甲賀）
主な内容	団体の活動発表、参加者の意見交換

開催日時	平成18年2月4日(土)
開催場所	甲賀農村環境改善センター
参加人数	17名
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ●紫香楽歴史街道をたずねる会 <ul style="list-style-type: none"> ・住民は市民という意識がまだ低い ・行政と温度差があるのではないか ・旧5町でもっと交流していかなければならない ●水口スポーツセンター <ul style="list-style-type: none"> ・スイミングスクールの説明 ・塩素を使わない、利用者に優しいプール。コーチも素人、市民に愛されるプールを目指す。「子供の教育」「子供重視のプログラム」「安心できる遊び場」「思春期の子供のためのプログラム」 ●愛林クラブ <ul style="list-style-type: none"> ・山を元気にしていく、経済価値が上がるような山にしたい。環境問題にも関心を持ってほしい。 ・下流の豊中市民と交流の歴史(H、17、18年) ・学校建築等に木材を使用。経済林として高価値 ・間伐は災害、環境の両面から必要 ●滋賀県薬業組合 <ul style="list-style-type: none"> ・市の薬業、農業、林業の現状と歴史 ・薬の歴史(甲賀を中心に滋賀県との関係) ・地場産業活性化 ・大学と協働(産官学協力 知識産業) ・第二名神 工場誘致 ・既存産業の衰退、高齢化の問題 ・地元のドリンクをコンビニで ・なぜこの地域で薬が発展? <ul style="list-style-type: none"> →富山のお殿様が江戸から持ち込んだ →山岳振興の一環として、甲賀忍者と結びつき発展か ・健康食品の開発が研究されている ・大手製薬会社を退職した人が甲賀地域へ ●甲賀のもちを利用したまちづくり ●和太鼓で地域づくり ふるさと賞受賞 <ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫のまちづくり ・5つの太鼓で立ち上げる。青年団、消防団中心 ・現在15人 地元の伝統民謡を和太鼓で ・課題 : メンバー不足・・・子供に教えていく

	<ul style="list-style-type: none"> ●会場で民謡の合唱 ●ニコニコ教室さん <ul style="list-style-type: none"> ・社協を通じて高齢者福祉活動 ・町時代・・・5ヶ所 市になり 3ヶ所 ・ボランティアで給食を配る（民生委員を通じて） ・手作り納豆づくり ●会場から「甲賀を再発見した」という声も
--	---

タイトル	第2回幹事会
主な内容	こうか市民活動ネットワーク運営における課題の検討
開催日時	平成18年2月9日（木）
開催場所	甲賀市役所3階会議室
出席	大平、木村、林田、水谷、大川、奥田、清水、杉本
内容	<ul style="list-style-type: none"> ●運営課題の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政との「協働」を目指して行政が声かけし、「市民活動の会」を起したいと呼びかけたのに、行政側が「皆さんでやってください」というスタンスでいるのはどうか。 ・ 行政が声かけして、皆さんで運営していってくださいと言っておきながら、行政側のイメージと合わないなどと監視しているような意見をいただくと、自分達でやっていく会という認識に立てない。 ・ スタートした当初は、3年後の夢を描いて様々な意見を交換し合ってきたが、今はその楽しさや前向きさを失いかけている。 ・ 市の担当者は会議に出席し、ネットワークの意見を聞いて帰るが、行政の上の方の人の理解は得られているのか。 ・ この会の役員には報酬などは支給されないが、せめて、交通費や電話代など実費分くらいは何とかならないのか。 ・ ネットワークへの補助金50万円は、総会で予算が決定され、各部会を担当する幹事が予算執行していけるものと思っていた。予算執行に関して、市から制約を受けるとは思っていなかった。 ・ 3部会に分かれて、幹事が各部会の代表となり事業を企画実施していくのは負担が大きい。できれば幹事が集まり、全体で一つずつ事業を進めていく方がいいのではないか。 ・ 幹事の数を増やしていく必要がある。旧町単位で活躍していた人などは行政の方が把握しているはずなので、行政側から声かけして働きかけられないか。 ・ 皆さんから意見や課題を聞かせていただいたが、市としては、今始まった

	<p>ばかりなので、これからお互いを知り、どうしたら近づけるか、一緒にや っていいのか探り合っていないといけないと考える。幹事の皆さんに は、無理のない方法を見つけていただき、行政も汗をかいて、お互い目標 に向かって少しずつ進めることはできないかと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政側は汗をかいてもらうのが当然だが、市民側も信頼してもらえる会に していかなとといけないと思う。
--	--

タイトル	支援部会 長岡市市民活動サポートセンター、ひらかた NPO センター視察
主な内容	先進地（長岡京市、枚方市）視察
開催日時	平成18年2月11日（土）
開催場所	長岡市市民活動サポートセンター
参加	9人
内容	<p>●長岡京市市民活動センター</p> <p>サポートセンターの立ち上げの経緯や活動状況、内容など理事の方などから お話を伺う</p> <p>たくさんの市民活動団体があった中で、市が呼びかけ、ネットワーク会議が もたれた。2年間かけて喧々諤々の話し合いをし「まちづくり支援センター準 備委員会」が必要だという提言を出し、その後さらに2年間程かけて支援セ ンターの検討を行った。空店舗での実験をとおして、3年間、市役所の近く の場所で人を配置して支援センターを設置し新しい施設に移転した。</p> <p>現在は、NPO法人 長岡京市民活動サポートセンターが運営</p> <p>●ひらかた NPO センター</p> <p>NPO センター主催の事業に参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 基調講演 『市民とつくる「新しい公共」』 千葉県我孫子 福島市長 38歳で市長に、現在3期目 市民自治をめざして行政を行ってきた <p>「公共」を行政だけが独占するのではなく、企業、NPO、ボランティア、 コミュニティビジネスなど様々なセクターが担う。サービスの大半は民間に 任せるが、全て市場経済の中で行うのではなくコミュニティの中で担っても らう。我孫子市13万人の都市で300くらいのNPOが公共を担っている。</p> <p>我孫子市は「協働の7つの原則」を定めている</p> <ul style="list-style-type: none"> 我孫子市長と語ろう 枚方 NPO センター視察、スタッフとの意見交換 <p>廃校になった学校施設を利用してNPOセンターにしている。</p> <p>NPO法人ひらかたNPOセンター運営協議会が運営</p>

タイトル	情報交流部会 交流会（甲南）
主な内容	講演「甲南町のこれから」、活動紹介等
開催日時	平成18年2月18日（土）
開催場所	甲南図書館
参加人数	約25名
内 容	<p>●車椅子レクダンスによる車イスダンスの実体験</p> <p>●観光協会会長（忍術協会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リタイア後、故郷の甲賀（甲南）へ ・昔と違い、職場ができ、豊かになっている。一方、農業が衰退 ・世界に通用する忍者ブランドを活かす ・産業が弱い・地方の時代 ・第2名神 新幹線 の開通で大阪まで1時間以内 どうまちづくりをしていくか 活気+落ち着きのあるまちづくり ・行政に頼らない（期待しない） 忍者ブランドのハコモノだけ期待 ・住民が政治に参画する必要がある 市民が地域を担う <p>→市民活動型自治</p> <p>●オカリナ演奏（信楽焼のオカリナ）</p> <p>●くのいち本舗 黒影おこわ 漬物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全て手作りの弁当を高齢者へ配達できないか？ <p>●手作り紙芝居 たつの子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園、老人会等をボランティアで回る ・高齢者の生きがいつくり ・「紙芝居」＋「マジック」 ・マジック実演 ・老人ホームで手話による「ふるさと」合唱 ・民生委員の要望で戸別訪問も <p>●バリアフリーかふか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体の不自由なお年よりのための自助器具の製作（利益目的ではない） ・本人だけでなく、家族が喜んでくれる ・県の助成の打ち切りで 資金の問題 <p>●六角ふれあいひろば</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H13 六角ふれあい市場 ・空き店舗の活用（一人暮らしの高齢者が利用） ・H15 社会福祉事業団 3世代交流 お年寄り 子供 障害者 ・六角堂を活かしたまちづくり ・人形供養

	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア25名（有償：交通費程度） ・読売、中日に掲載 甲南町全域に新聞広告 ●NPO ほほえみ（スタッフ 15、6人） ・高齢者介護 「手品」「話」「パソコン教室」 ・ひきこもり青年の支援活動 5名受け入れ 地域の理解が必要 ・コミュニケーション能力が弱い（社会的に不利） ・フォークリフトの免許取得→ハローワークへ自分で行くほど前向きに ●忍術研究会 ・かつての忍者の足跡をたどる きちんとしたものはない 伝承をたどる ・忍者 「国際ブランド」だが「Killer」のイメージ ・戦国時代に活躍 ・古文書を何らかの形にして残す必要 ・行動が隠密のため原則的に文書が残っていない 江戸時代の文書を読む ・図書館に保存庫を設置 ・地域のよさを引き出すためにも忍者研究 ●竹炭グループ 花水木 ・竹を切ったり、割ったりするのは重労働 ・現在は10名程度 ・軽労働+環境+健康を考えて 竹炭 ・第1・3日曜日に活動 ●おわりに ・支援部会、交流部会、協働部会をまとめる必要がある ・住民が主体性を持たなければならない ・問題点を行政に伝える
--	---

タイトル	第3回幹事会
主な内容	前回協議の確認、今後の具体的な取り組み
開催日時	平成18年3月9日（木）
開催場所	甲賀市役所 3階会議室
出席	大平、木村、林田、水谷、西沢、久保隅、清水、杉本
内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 前回協議した中での確認事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民との協働の中で「こうか市民活動ネットワーク」の働きがどうつながるのか。 ＊甲賀市の協働のまちづくりは3つのセクターの中で取り組んでいくが、ネットワークは中心的な役割を果たし、行政職員も参加し協働の学習ができるのではないか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市政の中で、市民の思いをどのような形で反映させるのか（総合計画） <ul style="list-style-type: none"> *計画づくりにおいて、様々な角度から市民の声を盛り込んでいく段階があり、この様なタイミングでネットワークの意見を反映させたい。 ・ 市政は市民活動ネットワークに何を求めるか（考え方） <ul style="list-style-type: none"> *協働を進めるにおいて、市民活動側の意見を聞き、一緒に考えていく必要がある。市民活動側が、どうしたら活動しやすいか、どうしたら活動が進むかなど、一定集約して意見を出す役割をしてほしい。 ● 4月以降の具体的な取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・ 原則幹事会は月1回開催する ・ 幹事の人数をもう少し増やす ・ 市民活動ネットワーク参加への意思をもう一度たずねてみる。 ・ 三部会制はとらずもう一度組織の見直しをする
--	--